

「ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2023」の 最終審査結果について

1 要旨・目的

魅力ある建築物の持続的な創造に向けたクリエイティブな人材育成の一環として実施している「ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2023」において、全国の建築学生より応募された49作品の中から1次審査で選定された5作品を対象として、公開による最終審査を行い、最優秀作品等を決定した。

2 実施概要

(1) 応募対象者

全国の大学、大学院、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校に在籍する学生
(個人又はグループによる応募とする。)

(2) 対象建築物

県営向ヶ丘住宅集会所(福山市水呑向丘)

3 最終審査の概要

(1) 審査日時 令和5年11月18日 13時00分～17時30分

(2) 会場 叡啓大学15階叡啓トップ (広島市中区幟町1-5)

(3) 内容 1次審査通過者によるプレゼンテーション、審査員による質疑応答など

各賞	応募者氏名	所属学校(所在地)
最優秀作品賞 (1点)	宮本明輝、宮地栄吾、長野耀、北村太一	近畿大学・大学院、 広島工業大学大学院(広島県)
優秀作品賞 (2点)	岡崎友洋、大呂直樹、沈子楡、松岡達哉	広島大学・大学院(広島県)
	曾根大矢、粕谷しま乃	近畿大学大学院(広島県)
入賞 (2点)	小島宗也、熊谷翔大、有木壮太、 藤本泰弥	近畿大学・大学院(広島県)
	井上龍也、岡本一希、高尾耕太郎、 谷卓思、隠崎嶺	広島大学・大学院(広島県)
審査委員長特別賞 (2点)	仮屋翔平、石川華菜子	九州大学大学院(福岡県)、 鹿児島大学大学院(鹿児島県)
	福原直也、福士若葉	法政大学大学院(東京都)

4 最優秀作品及び選評

作品名：「まちを結びつける 5つのカベ」



模型写真

(選評)

5つのカベと五角形の形をした外観がシンボル性もありながら包み込むような親和性があり好感が持てる。多方向に視線を誘導する壁の作り方と内外に繋がる領域の作り方が非常に秀逸で、構造的に柔軟性がある点や、天井高さと機能をうまくリンクさせる点などの工夫が見られ、今後カベの伸ばし方によって使いやすさの発展が期待できる。

5 審査委員

委員	氏名	所属等
審査委員長	武井 誠	建築家、株式会社 TNA 代表取締役、京都工芸繊維大学特任教授
審査委員	小松 隼人	建築家、株式会社小松隼人建築設計事務所代表取締役 広島工業大学非常勤講師
	高田 明秀	建築家、GRIND ARCHITECTS 主宰
	川島 満	広島県土木建築局建築技術担当部長
	奥野 功貴	広島県土木建築局住宅課長

6 最終審査会の様子

現地で公開審査を実施、また、YouTubeによりWEB配信を行った。



審査会場の様子



公開プレゼンテーションの様子



審査委員による選考の様子



表彰式後の記念撮影

7 今後の予定

最優秀作品は、その提案趣旨を踏まえ、実施設計者による設計を進めていく。

(次ページ) 最優秀作品提案書

まちを結びつける 5つのカベ

個性のある外に広がった壁によって地域やまちの人が日常のなかで自然とつながる集会所を提案します。壁があることで集会所を利用するきっかけとなり、日常に溶け込んだ集会所が人々に寄り添ったまちのシンボルとなることを目指します。

1-1. 既存の集会所の形状による内に閉じた活動

高齢者が多く住んでいる水呑丘陵には人の集える場所が少なく、今回建て替えられる集会所が北区と南区も含め人が集まる唯一の場所となっています。定期的に人が集まる活動拠点の場となっていますが、現在の集会所は外に開いておらず、中での活動があまり人の目につかない状態となっています。これからの集会所はよりまちに対して開かれ、日常に寄り添った存在であるべきではないでしょうか。



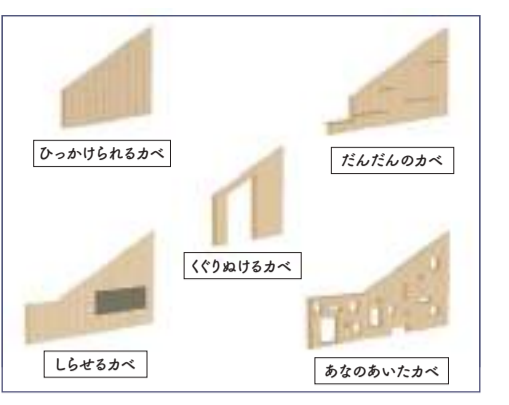
1-2. 様々な敷地パターンに対応しつつ、人々が自然と集まりたくなるデザイン

水呑の街は人が通ることができる様々なアプローチが見受けられました。そして、建て替え事業より想定される敷地パターンから周辺と同調しつつ様々な建ち方・使われ方に対応できることが必要だと考え、様々なアプローチから人々を迎え入れることができる、地域の拠り所となるような水呑らしい集会所が必要なのではないかと感じました。



2. 周辺からつくられる、日常に寄り添った集会所

地域の人が自然に集えるように、集会所からではなく、その周辺から設計していき、日常との接点をつくり出します。周辺環境に対して個性ある5つの壁が領域をつくりながらまちに開かれ、人々を受け入れます。この地域に寄り添った集会所の周辺環境が世代を超えたつながりをつくるきっかけとなり、まちの中心となる集会所を目指します。



3. 地域のみんなに愛られる、まちのシンボルとなる五角形

集会所は個性ある5つの壁が構造として集まり、放射状に配置することで開放的な大空間をつくりながら内と外とのつながりを持つ豊かな集会所を生み出します。集会所から広がる壁は周辺の人々に日常的に利用される場所となることで内側での活動を知る些細なきっかけをつくります。この小さなつながりの連鎖からさまざまなアクティビティを育み、多世代をつなぐ水呑の交流の拠点となっていくことを期待します。



大きな屋根のかかったおらかな室内空間は建具を開けることで外への広がりをもつ。



大きなトンガリ屋根と外へと延びる個性のある壁は人の目をひきながら訪れた人を優しく受けとめる。

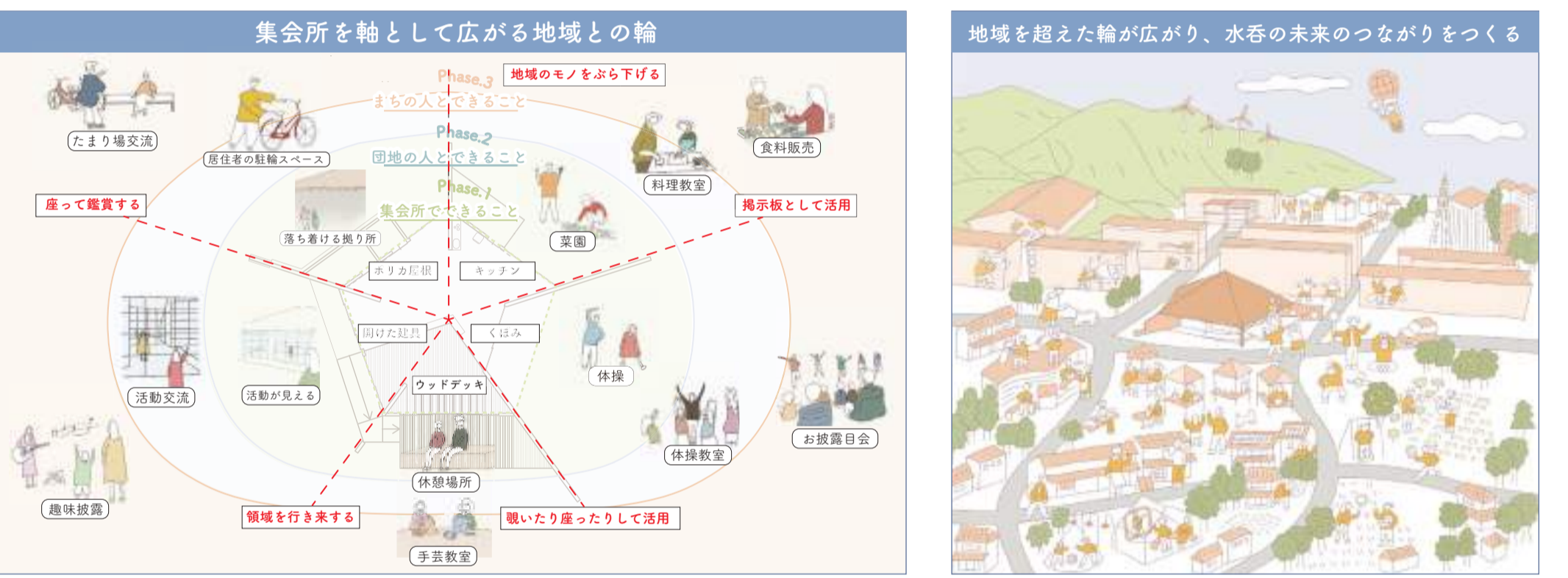
4. 様々な住棟のパターンでも魅力を損なわない対応力

既存のアプローチから導かれた5つの面が持つ求心性と、360°全面に対して開いた裏を持たない形状が周辺環境を内部に取り込みます。また、5つの壁がまちの小さな変化に反応し、町と集会所の間に生まれてしまいがちな境界を溶かします。これらによって建て替え事業により考えられる様々な住棟のパターンにおいて対応することが可能です。



5. 日常に寄り添いながら未来のまちづくりに影響を与える展開力

柔軟な対応力を持ちながら周囲に影響を与える集会所が、今回の建て替え事業の後にも行われるであろう水呑のまちづくりの中心となることを目指します。集会所によって人々がまちとつながる領域が徐々に生まれていき、未来の水呑のまち全体に影響を与えながら展開していく力を秘めています。

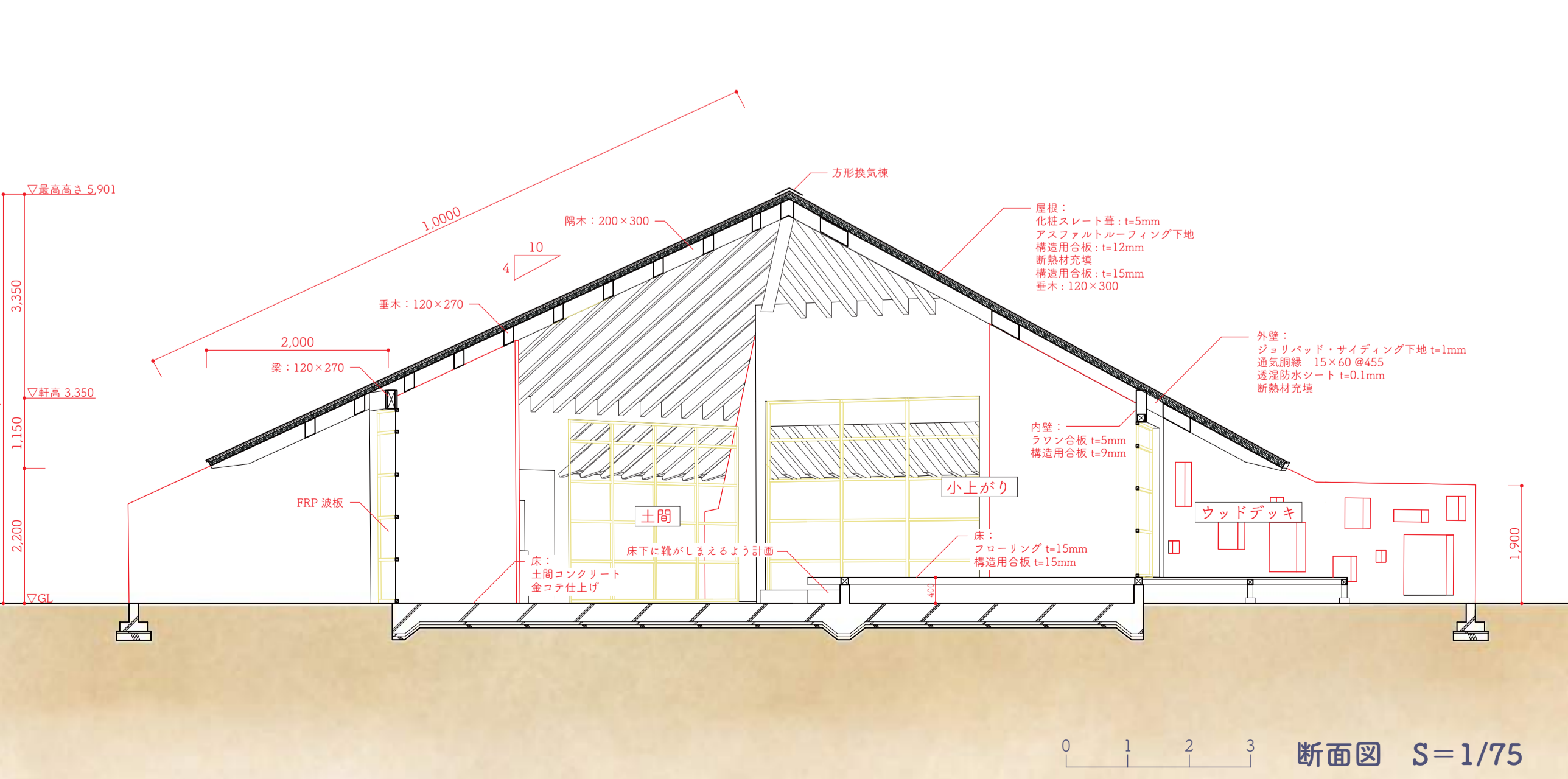


構 無柱空間となる集会所は五角錐の山形架構で構成します。製材スパンを超える隅木は県産の集成材を使用し、それ以外の構造部材は製材を用いることで躯体費の削減を図りつつ魅力的な空間を目指しました。

ラ イフサイクルコストへの配慮
木造架構の大屋根の先端上部付近に小さな傘状の開口を設けていることにより、常に自然換気が行えます。これにより屋根の上部に暖かい空気がたまることを防ぎます。また一面の屋根をFRP波板にすることで高さのある室内空間に昼光を取り入れます。

ロ コストへの配慮
内外を仕切る建具や壁に付けるツールを安価な材料により自作することでインジナルコストを削減します。更に土間コンクリートの金コテ仕上げにすることでコストを削減します。

効 率的な維持管理への配慮
土間コンクリートの金コテ仕上げとした床部分はホコリなどのゴミの掃除がしやすく、維持管理が容易になります。また、全面の軒を外壁部よりも2mほど延長させることで壁や床の汚れを低減し、綺麗な環境を保ちます。



6. みんなの理想の集会所となるための計画

私たちは毎週木曜日に行われる向ヶ丘サロンに参加させていただき、実際に使用されている方達とお話を伺い生の声を聞きました。利用されている方々の要望にしっかりと応えるため、これからの集会所のあり方について考え丁寧に設計をしたいと考えています。

- 住民の声：段差が大変、小上がりが欲しい、体操ができるスペースが欲しい
- 柔軟性のある集会所
現在利用されている集会所の規模が約30㎡程度ということもあり、集会所に土間スペースと小上がりスペースを設けました。土間は内外フラットに出入りでき高齢者でも利用しやすい場所となっています。また土間は様々な状況に対応でき、体操などスペースをとる活動などは開口を開け外と一体的に使用することが可能です。
- 住民の声：若い人も参加してもらいたい これから：水呑らしい集会所
- 様々な居場所のある集会所
この建築は内に閉じず、どんな人でも迎え入れる水呑らしいおらかな佇まいをしています。個性ある5つの壁がさまざまな人と結びつくことで、小上がりに座って話す人やデッキに寝転んでる人など各所に居場所ができ、多世代との交流が生まれます。
- 住民の声：ふらっと立ち替れる場所 これから：向丘の拠点として
- 大屋根が新たなまちのシンボルに
水呑の街並みに呼応し、全方向に開かれた集会所は人々を迎え入れ、まちのたまり場となります。特徴的な5角錐の屋根はどこの街からも新しいまちのシンボルとなります。
- 住民の声：軒下空間が欲しい
移動販売車が停車し販売できるスペースや、雨宿りができるよう軒を延ばし2000mmの軒下空間を設けました。
- 住民の声：無駄な植栽を計画しないで欲しい
植栽を開いた一面のみ計画することで、維持管理が容易にできます。

7. 街のみんなとともに考え、ともにつくり上げる

この集会所がまちづくりの拠点になっていくよう設計のプロセスと大事にし、ワークショップなどを通して話し合い住民の皆さんと、ともに考え、ともにつくり上げていきます。

面積表

小上がり	28.80㎡
土間	51.88㎡
集会所	80.68㎡
男性・女性用トイレ	3.48㎡
重いトイレ	5.94㎡
便所	9.44㎡
倉庫・物置	8.06㎡
合計	98.18㎡

あなのあいたカベ
ポコポコ空いた壁はモノを置いたり、子どもが通り抜けたりできる。

しらせるカベ
まちの隅々となる壁、水呑のポストや学生の前、商店などが寄り添っている。

ひっかけれるカベ
有効ボードを取り付けた壁。洗濯物や使用する物をひっかけることができる。

だんだんのカベ
段々に壁が厚み込まれた壁。高いところは壁、低いところはベンチとなっている。

くぐりぬけるカベ
人がくぐり抜けられる大きな空いた壁。くぐりぬける壁にベンチやロッグを配置することで別々の面を行き来する。

